

第一部

冬の雅歌

〔句集「途上」より〕

- 詩…高原桐
 曲…松村百合
 歌…伊藤香代子
 篠笛…松尾慧
 琵琶…大上茜
 チェロ…三森未來子

七夜月／花のみちゆき

〔「恋ひ歌」三章より〕

- 詩…伊豆裕子
 曲…小山順子
 歌…山本有希子
 十七絃…福永千恵子
 三絃…野澤徹也

天女

- 詩…太田眞紗子
 曲…小室美穂
 歌…林廣子
 篠笛…松尾慧

宵待人

- 詩…木下宣子
 曲…池上眞吾
 歌…武田正雄
 箏…池上眞吾
 十七絃…平野裕子
 尺八…田嶋謙一

第二部

荒涼たる帰宅

- 詩…高村光太郎
 曲…田丸彩和子
 歌…福嶋勲
 篠笛・尺八…設楽瞬山
 薩摩琵琶…岩佐鶴丈

アダジオ

- 訳詩…齋藤磯雄
 原詩…フランソワ・コペ
 曲…千秋次郎
 歌…関根恵理子
 第一箏…重成礼子
 第二箏…木村麻耶

しだれ桜―紫の上―

- 詩…藤井慶子
 曲…高橋久美子
 歌…百合道子
 篠笛…松尾慧
 琵琶…久保田晶子

のみの 鑿と桜

- 詩…山根研一
 曲…中島はる
 歌…森田澄夫
 箏…砂崎知子
 尺八…田辺頌山

ごあいさつ

一般社団法人波の会日本歌曲振興会 常務理事
「邦楽器とともに」代表 森田澄夫

本日はお忙しいなか、ご来場頂きましたことを、心より感謝申し上げます。

この企画は、日本の伝統楽器である和楽器とともに、声楽家が歌える歌曲の創作普及を目的として始まりました。

既存の「邦楽器を伴う日本歌曲」を会の内外から集め、デモンストレーションとして行った初回を別として、第二回から昨年の第八回まで新作の会として行ってきたこの企画で、お蔭様で、これまでおよそ六十曲が誕生しました。

こうして生まれた作品のうち、再演、再々演されている曲も見受けられるようになりました。

そこで今回は、第一回目と同じく、この企画以外で生まれた作品も含め、もう一度聴きたい曲、演奏したい曲を集め、再演の会といたしました。

創作と普及は車の両輪のように、どちらも大切な活動と言えます。改めて、この企画に賛同し、ご参加下さった、詩人、作曲家、声楽家の諸氏、また、気持ちよく共演下さっている、邦楽演奏家諸氏のご協力の賜と、深く感謝申し上げます。

「東西の融合、東から西への発信」という大きな目標に向かい、様々な課題を克服しながら、邦楽奏者とともに手を携えて、一歩一歩前進して参る所存です。

今後ともご指導ご鞭撻をお願いするとともに、暖かいご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

【第九回「邦楽器とともに」実行委員】
中村綾子 青山恵子 木下宣子 千秋次郎
鳴川太郎 伊藤香代子 きむらみか
関根恵理子 高島和義 高橋久美子
田丸彩和子 藤井慶子 横山政美
吉田義昭 和澤康代 森田澄夫

◆冬の雅歌〈句集「途上」より〉

私の故郷である能登を中心に雪国を慕った句を編み、そのいくつかに新たな七五のリズムを添えて詩の世界を広やかに展開しました。この日本のリズムに乗って、脈々と受け継がれてきた移ろう四季の妙や生の有り様が、いまま新たに歌曲となって輝きます。篠笛、琵琶、チェロによって、冬の能登の景色が一層鮮やかに描き出されることでしょう。あたかも雪国曼荼羅となり、聴く人の心の原風景になりますよう願っています。―初演二年の後、東日本大震災が起きました。今宵の演奏はきつと、東北、いえ美しい日本の自然と人々の心の復活への、祈りの雅歌ともなることでしょう。〔高原 桐(詩)〕

◆七夜月／花のみちゆき

伊豆さんの人形浄瑠璃を題材とした切なく美しい三つの詩に付曲。組曲「恋ひ歌」三章とし二〇〇九年初演。本日は、うち二曲が演奏される。

「七夜月」―恋の成就を願う祈りをソプラノと十七絃が叙情的に歌う。「花のみちゆき」―「夜桜の幻想的な情景に出会った時、ちりふぶくはなびらの中を浄瑠璃の人形たちを歩かせてみたいと想像が膨らみました」(伊豆裕子と十七絃・三絃のピチカート奏法による柔らかい響きと十七絃の低音が醸し出す深い緊迫感。二つの対照的な音空間が、ソプラノによって歌われるお初の不条理な悲恋を際立たせる。

〔小山順子(曲)〕

◆天女

二〇〇七年のことだった。作曲家の小室美穂さんから、素晴らしい笛の音が毎日聞こえるので、その音を生かした詩を書いてもらいたいとの依頼があった。

私は「天女が笛を吹いている」と思った。日本の笛ならば短歌にしようと思つた。三首作つた。

浜辺に舞い降りた天女。その幻を見た若者の夢。高く遠く舞う天女を追って現代の青年が遙かに思いを馳せる。天空へ昇って行くような笛の音と人間の声が自然の中で溶け合うひびき。音という空気の流れがもたらす無限。夢幻・・・。

〔太田眞紗子(詩)〕

◆宵待人

第二回演奏会での作品で、その後「折り鶴抄」、オペラ「与吉のオラシヨ」を加え三部作として、初演の森田氏が東京・博多でのリサイタルで演奏された。

池上氏の音楽の魅力がいかなく発揮された作品で今回は時間が約半分に短縮されている。

竹久夢二に興味をもったのは、「青春譜」という不可思議な絵に出会った時だった。その作者があの人画の夢二であることに驚き、この画家の系譜を尋ねていくことになる。強烈な個性の光と影・高い理想と挫折の生涯はまことに興味深い。今回フランス歌曲の武田氏が歌われる人画伝、新たな魅力が楽しみである。

〔木下宣子(詩)〕

◆荒涼たる帰宅

「智恵子抄」所収の「荒涼たる帰宅」は、高村光太郎の妻・智恵子の死から二年八か月後に書かれた作品で、智恵子の死の直後から、葬式、葬式の直後までの様子が描かれている。

「智恵子の半生」の中で光太郎は、智恵子を失って空虚感にとりつかれていた自分が、何か月かが経った満月の夜に、智恵子はその個体的存在を失う事によって却って自分にとっては普遍的存在となつた事を痛感した、と言うようなことを述べている。「荒涼たる帰宅」の最後の一行がまさにこのことを暗示している、と思ひ、私はその思いに沿って作曲することにした。

〔田丸彩和子(曲)〕

◆アダジオ

永井荷風を思わせるような「私」が、日課の散歩の途上で出逢う屋敷、中からは同じ時刻に聞こえてくるピアノ、ひと夏が過ぎる頃にはその音が途絶え：：ゴシック・ロマンめいたコベの詩を箏歌に託しました。二面の箏は、いわば二段鍵盤クラヴィアといった趣きです。

世間から無視され、やがて消えて行く切実な音楽は、生活信条を頑なに守る詩人の心情と共感しあい、それがまた今回の作曲の契機でもありました。音楽の構成上、一部割愛した章句もありますが、日本語の声にとっても心地よい歌曲であってほしいと願っています。

〔千秋次郎(曲)〕

◆しだれ桜―紫の上―

しだれ桜が再演されることになりあの流麗な篠笛、琵琶、美しい曲の流れを耳にすることの喜びをかみしめております。

京の桜は、そのきらびやかさと優雅さから源氏物語の女主人公たちと結びついてしまします。特に第一ヒロインの紫の上を紫式部は花なら榊桜の花ざかりとたとえています。

私はしだれ桜は紫の上、それをもて遊ぶ風は光源氏とします。王朝貴族たちの恋愛が中心の物語には京の桜が一番ふさわしいのではないのでしょうか。この詩は高瀬川のほとりを散策しておりました折、兩岸の桜が風に翻弄され乱舞する様を描写いたしました。

〔藤井慶子(詩)〕

◆鑿と桜

イタリア留学中に、日本人の血の問題を強く再認識させられた私は、帰国後、邦楽器を使った歌曲の少なさに驚くと同時に、その必要性を痛感しました。

当時、当会とともに活動していた詩人の山根氏に、「愛している」という直截的な台詞の入った、近松の心中物のような、ドラマ性に満ちた詩を依頼。そして、その詩に、以前から邦楽器を使用した歌曲も多く作曲されていた、中島はる氏が付曲。彼女の持つ、しつとりとした情感とドラマ性が見事に具現された、このモノオペラ風の作品が誕生しました。今回は時間の都合で短縮版演奏。今は亡き、山根、中島両氏に捧ぐ。

〔森田澄夫(歌)〕